

「自ら考えて行動することの大切さ」

今年は朝晩の寒暖差が大きいので紅葉がすばらしく、龍ヶ山が錦で彩られています。芸術・文化の秋は各所でいろいろな催しが行われ、生徒が活躍してくれています。その中で先日、11月15・16日に東京で行われた「全日本高校模擬国連大会」に出場した、2年次の宇佐川真央さんと高井るなさんが、校長室を表敬訪問してくれました。

8回を数える全日本大会には予選を勝ち抜いた67校82チームが出場し、「世界食糧安全保障サミット」が開かれたとの想定で、高校生が各国大使となって協議し決議案を採択したそうです。

お二人はオーストラリア大使として、いくつかある論点に対し事前に案を作成し、他国と交渉して協力を募って提案し、最終的に採択された決議案の中にその考え方が採用されたそうです。残念ながら世界大会への出場はなりませんが、世界大会のニューヨークへ行きたいという気持ちや将来外務省で働きたいという夢のために、大健闘してくれました。討論は日本語でも、発表は英語ですのですから、大変だったと思います。

「言われたことをするのではなく、自分から考えて行動する大切さを学んだ。」
「考える力が付いた。準備は大変だが今やっていることは何のためにやっているのか、目標を持ち目的意識を持つことが大切である。」

グローバル化が進む社会において、自分の意見を主張するだけでなく、相手の意見もよく聞き、その考え方も取り入れて修正しながら前進し、目的に達する。そのためには事前に豊富な基本的知識を身につけておかねばならないし、二人の感想にあるようにいくら知識や技術があってもそれを活用し言葉で伝えられなければ、世界中の人と協働していくことはできません。この柔軟な考え方と、総合的な活用力を北須磨高校で身に付けてもらいたいものです。

そして自分の夢を実現するために、ぜひ来年もこの二人に続く人が出てきてくれることを期待します。